

## 総合的な探究の時間における SW-ing の講評について

本授業は、総合的な探究の時間における SW-ing として位置付けられ、「問題解決に向けての思考の仕方」をテーマにし、科学的思考力 (SW-ing SLC) における課題理解・発見力 (解決すべき新しい課題を自ら設定できる) 及び自己調整力 (見通しを立てて物事を計画したり、結果やプロセスを振り返って適切に修正・改善できる) に力点を置いた授業構成であった。授業内容では、論理性を持たせながら、「問題→原因 (振り返り) →方策→結果」という問題解決のステップを経験させると共に、問題の本質を抽象から具体へと転換する視点とそれに伴う思考の表出・表現を流れとし、科学的な思考を身につけるために、生徒にとって有用な考え方であると感じた。50分の授業としては、時間的に制限があるため、ピンポイントで問題を洗い出すと共に、思考の共有により原因を解決する方策を提案しながら、日々の授業の中で1つ1つのステップを繰り返して習得して行くことにより、シンキングリテラシー (思考する) 獲得への訓練が課題研究へと繋がっていくように感じた。

授業改善の視点としては、本授業では、問題設定と原因の追究及び解決までを1つのグループで実施していたが、類似の原因を考えた生徒達で再度グルーピングし、考えを深めながら、方策を特定しつつ、解決に繋げていくことも授業全体の深みを持たせるのではないかと感じた。本授業の最終目標としている「目指す理想から方策を考えるプロセス」は、今後の実践の動機付け (きっかけ) として十分に達成されていたように感じられた。今後の方向性として、情報の収集・分析・調査の大切さを実感させながら、具体化した問題の所在を明確にした理想を掲げて、達成水準に到達する目標を定めて、そのギャップ (方策) を埋めるための手続きが授業の方向性であると考えられる。また、可能であれば、解決する内容を欲張ることなく、目標を生徒自身が設定する事が望ましいと考えられる。そのためには、問題の核心 (コア) を如何に設定していくかが鍵になってくると考えられる。